

## サッカーの実践研究で果たした大阪支部の役割

山本 雅行

サッカーの実践研究を支部として取り組んだのは、「体育実践に新しい風を」（1993年9月1日初版発行大修館書店）に結実した実践でした。この実践は、当時の研究局と球技プロジェクトメンバーの私との共同作業でした。子どもたちがゲーム分析し課題を発見する。子どもたちが主体になって授業を作っていくというものでした。この本には、当時課題発見学習を子ども主体に行うという学習方法が実践研究で主体になっていてその成果が集約されたものでした。右記に示した表は、全国大会「作戦・戦術」分科会サッカーの1990年から2001年までの経過を表したものです。これは、岐阜支部の竹中が2002年熱海大会で経過を発表したものです。大阪のメンバーがいかにこの分科会で大きな役割を果たしているかというのも全国の実践研究に貢献している証拠となることと思われ載せました。

**基調報告 9本中 3本 実践報告研究報告 9本中 6本。** 基調報告と実践報告研究報告合わせて18本中9本（50%）が大阪支部のメンバーが占めています。

上記の件は、私がこの分科会の責任者として10年以上も関わって来ていることも決して無関係ではありません。常連のメンバーの助けも借りながらなんとか運営できました。大阪支部以外の基調提案や実践研究報告もそういったメンバーの支えがあったからこそでした。

### \* 「じゃまじゃまサッカー」の誕生と全国への伝播

1997に報告された辻実践報告の「まとあてサッカー」から始まった安全でサッカー学習が誰にでも楽しく取り組める教材を開発しようという発想から今では、定番になっている「じゃまじゃまサッカー」が大阪球技プロジェクトによって生み出されました。

### \* 「お祭りフットボール」

小学校で教える教材サッカーでは、「作戦・戦術」以外にも外すことのできない文化継承すべき内容があるのではないかという思いからイギリス誕生のサッカー・ラグビーの元になった村同士の年中行事「民族フットボール」その楽しさの核となって今でもサッカーやラグビーのルールに引き継がれている「オフサイド」を学習研究しようと大阪球技プロジェクトで取り組みました。結果全国大会で若手によって実践報告提案がされました。全国の研究運動に呼応するようにいつでも大阪は、先陣を切って実践研究をしています。

サッカー分科会近年のあゆみ SINCE1990

| 年    | 開催場所 | 基調報告との特徴<br>報告者   | 実践報告など<br>報告者  |
|------|------|---|--|
| 1990 | 高知   | 分科会研究の歩みと課題<br>・ゲーム様相に沿った学習課題<br>・ゲームの階層システム<br>船富 (大阪)                   | 2人のコンビネーションづくり (中2)<br>田口 (岐阜)<br>系統の論理的再編成<br>才藤 (熊本)                                     |
| 1991 | 秩父   | 指導体系の再構築へ向けての覚書<br>・「2:0」を学ぶ<br>・ゲーム指導は作戦づくりが中核<br>中瀬古 (広島)               | 「居残り作戦」を乗り越えて (小2)<br>才藤 (熊本)<br>考えて意図的プレーを生み出す (小2)<br>竹中 (岐阜)                            |
| 1992 | 知多   | サッカーを教える? サッカーで教える?<br>・「スポーツと国民性」を教える<br>・「全習」と「分習」<br>塩川 (大阪)           | サッカーは戦略・戦術だ (小)<br>山本 (大阪)<br>子どもとすすめたサッカー学習 (小4)<br>宇賀神 (東京)                              |
| 1993 | 女川   | ※   | 子どもたちの手で授業を進める (小5、6)<br>盛島 (岩手)   |
| 1994 | 山口   | ※   |  |
| 1995 | 東京   | 不確定要素がおもしろい<br>・サッカーで何を教えるか?<br>・「学びの必然」と「意図された学び」<br>宮川 (神奈川)            | サッカーと全員シュート (小5)<br>中本 (広島)<br>サッカー学習系統表 (研究報告)<br>山本 (大阪)                                 |
| 1996 | 阿蘇   | ※   |  |
| 1997 | 愛知   | 分科会研究の歩みと課題<br>・教育課程づくりの重要性<br>・文化研究の必要性<br>井上 (京都)                       | まとあてサッカー (小2)<br>辻 (大阪)<br>ボムによる意図的な組織プレー (小6)<br>武内 (高知)<br>近代サッカー戦略の変遷 (研究報告)<br>竹中 (岐阜) |
| 1998 | 長野   | 「2:0」から学ぼう<br>・系統の一人歩きと「2:0」<br>・「戦略・戦術」と「不確定要素」<br>田口 (岐阜)               | まとあてサッカー (小1)<br>阿部 (東京)<br>オフサイドルールについて (研究報告)<br>井上 (京都)                                 |
| 1999 | 神戸   | 本当に「課題」はこれでいいのか<br>・「戦略」「戦術」とは<br>・教育課程づくりの提案<br>福井 (岐阜)                  | 「予測」を一致できるゲーム (小3)<br>梶 (兵庫)<br>約束ごとを生かす練習 (小5)<br>井上 (京都)<br>「教育課程」試案 (研究報告)<br>船富 (大阪)   |
| 2000 | 中標津  | 「戦略」「戦術」「作戦」のこれまでと今後<br>・一般的な戦術とは<br>・各球技独自の特殊戦術について<br>制野 (宮城)           | 「教育課程」試案2 (研究報告)<br>船富 (大阪)  |
| 2001 | 白浜   | 低学年におけるサッカー教材の優位性<br>・低学年に養いたい力<br>・基礎技術学習のプレ学習<br>・教育課程試案に触れて<br>船富 (大阪) | じゃまじゃまサッカーパート2 (小1)<br>山本 (大阪)<br>カリキュラム試案 (研究報告) (小から中)<br>庄子 (宮城)                        |